

---

# **朝まで脳討論**

クレーン ケン

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

朝まで脳討論

### 【著者名】

Nコード

【作者名】  
クレーン ケン

### 【あらすじ】

右脳と左脳が繰り広げる激論バトル！

右脳と左脳の言っている事はどうちが正しいのか？

田原「えへ、視聴者の皆様こんばんは。田原正一郎です。今日のテーマはズバリ『脳』です。そうですね、今日は最近何かと話題になつている人間の脳について朝までノンストップで議論をしたいと思います・・・。」

では、本田のゲストをお呼びしましょう！右脳と左脳です！」

いつもの音楽が鳴り、スタジオに右脳と左脳が現れる。

客席から拍手がわき起こり、右脳と左脳が丸テーブルに着席する。

田原「今日のゲストの右脳さんと左脳さんです。えへ、一見するとお二人の違いがよく分からぬのですが、自己紹介をお願いします」

右脳「僕が右脳です」

左脳「私が左脳です」

田原「あ、成る程成る程。『僕』と言つてするのが右脳で『私』と言つてするのが左脳なんですね。・・・しかしですね、どうも私達素人からすると貴方達の違いがよく分からぬのですが・・・」「

右脳「簡単に言つと、僕は直感で生きています」

左脳「そして私はとても理性的です」

田原「成る程成る程。それではスバリと聞きましょう。貴方達はい

つたいどつちが偉いのですか？」「

右脳「決まっています。僕です。僕は感情に生きており、とても人間的です。

しかし左脳はとても心が冷たい」

左脳「なんだとつ！」いつの言つ事を信用しちゃいけません！私こそ真のリーダーなのです！右脳に人生を任せてしまふと、世の中メチャクチャになつてしまふ！」

右脳「失礼な！世の中の美しい事を理解しているのは僕だ！お前はいつも人や世の中の事を批判ばかりしているじゃないか！－！」

左脳「何を言う。人間には批判精神が必要なのだよ。第一お前はちつとも勉強しないじやないか！音楽ばっかり聴いて！」

右脳「音楽を理解しないのは僕から言わせると、は虫類以下だね」

左脳「なに～つ！！！！！」

田原「まあまあまあまあ。一人と落ち着いて。では左脳さんの言い分を聞いてみましょう。・・・・左脳さん、あなたは右脳にはぜつたいに政権を任せられない、とこのよつて言いたいのですね？」

左脳「当たり前です！！右脳はあまりに感情的すぎます。感情では政治は動きません！」

右脳「なんで政治なんかが必要なんですか？！そんな物、要りません！」

左脳「ほら見なさい、ほら見なさい！右脳はただのアナーキストです！！そんなヤツには人生を任せられないでしょう？」

右脳「…………」

左脳「…………」

田原「ストップ！ストップ！」一人ともうるさすぎて何を言っているのか分かりません！！一人とも大人なんだから、冷静になつてください。

・・・・・では総括してみましょう。つまり左脳の言い分は、右脳は感情的すぎて、信用ができない。そして、右脳の言い分は、左脳はあまりに心が冷たいから信用できない、とこういう訳ですね。

・・・・しかし私の見る所、20世紀は左脳が優勢だったような気がするのですが、違いますか？」

右脳「さすが田原さん。そのとおりです。20世紀は左脳が世の中を支配してました。しかし、その結果世の中には戦争が多発したのです」

左脳「人を戦争犯罪人みたいに言つた！失敬な！」

右脳「いや、君はとても攻撃的だよ。それが暴力を生み出している。

君は政権から退き、我々右脳に主導権を譲り渡さなければいけないのだ」

左脳「ハハハハツ！！なんだと？！お前が世の中の主導権を握るだと？そりゃムリだな」

田原「ほほほ。右脳は主導権を取れない、と、それは何故ですか？」

左脳「右脳はとても迷信深いのですよ」

田原「と、まあ」と？

左脳「右脳はすぐに神にすがつてしまつのですよ。つまり宗教に頼つてしまつのですな。・・・我々は何百年もかけて政治と宗教を分離してきたと云つて、右脳はまだ過去の遺物に戾りつとするのです！」

はっきり言いましょ、宗教はアヘンです！――

右脳「僕から言わせると、左脳が作り上げた科学主義こそアヘンだね」

左脳「科学が我々の生活を向上させたんじゃないか！――

右脳「それは確かにその通りだらう。しかし君は人間の魂の存在を否定し、その結果世の中はとても憲苦しくなつてしまつた」

左脳「ほれ、ほれ！聞きましたか？『魂』ときたもんだ！いつたいそんな物がどこにあると言つたです？田原さん、分かりましたか？こんな化石頭には政治はムリなんです！――

田原「つまりあなたは『魂』の存在は信じていないと?」

左脳「当たり前です。聞くのもおざましい言葉ですね」

右脳「左脳くん、君は最近自分を鏡で見た事があるかね?」

左脳「何が言いたい?」

右脳「20世紀まで君はとても若々しかったが、21世紀に入り、君はとても老け込んでしまった。・・・恐らくとても疲れているのだろう?」

田原「そういえば右脳さんはとても若く見えますね」

右脳「我々右脳は歳を取らないのですよ。今世の中が停滞しているのは、左脳が疲れてしまっているからなんですね」

左脳「何を根拠に、そんなデマカセを言つ?..」

右脳「直感ですよ。左脳を酷使しそぎた社会はいつかは停滞します」

左脳「またその言葉か!何のデータも提示せずに『直感』などと言つ!..

・・・君はその直感とやらを使って芸術をやつていればよかつたのだ!

君のような人種が政治に介入すると後悔する事になるぞ!..」

右脳「ところが、そういう訳にはいかないのですよ。普段は我々右脳はとても

だらしないのですが、時には戦わなきゃいけない

田原「戦う？　どうしてですか？」

右脳「我々右脳と左脳は本来ひとつなんです。左脳さん、そうですね？」

左脳「……………そう、本来我々はひとつの脳だな」

右脳「つまり、左脳が疲れ果て滅びてしまうと、同時に右脳も滅びてしまふのです。…………それはほつとけません。普段は音楽ばかり聴いたりしている、だらしない人種なのですが、この時ばかりは戦うのです。

我々は命の大切さをあらゆる手段を使って訴えます。

・・・・・その間は左脳にはゆっくりと休んでもらいます。  
そして左脳が元気になつたら、また活躍してもらひうのです。  
いつかは、また左脳が活躍できる時代が来るでしょう。

しかし今の時代は左脳はとても疲れているのです。

だから元気になるまで、我々右脳に政権を委ねゆっくりと休んでいてください」

田原「成る程成る程。…………話も尽きませんが、そろそろ番組が終了する時間です。番組をご覧の皆様、是非皆様のご意見を下記の『コメントを書く』にご投稿ください。それでは皆様、司会の田原

正一郎でした！」

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n7198m/>

---

朝まで脳討論

2010年10月15日22時57分発行